

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年も半分を過ぎてきました。年前半を振り返るとともに、年後半の展望を考えてみたいと思います。

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられます。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れと、明確な方向性を描けない動きが続いています。

このような状況の中、年後半の展望を考える場合、最も注目すべきは米国の実体経済といえます。

FRBは年内後一回以上の利上げを考えており、さらにバランスシート縮小の開始も確実視しています。FRBの見立てを前提に考えると、年後半のドル/円のメインシナリオは、ドルの緩やかな上

ドル/円相場のトレード戦略

昇となるでしょう。ただし、実際の経済指標はやや斑模様となっており、市場では米景気拡大に懐疑的な見方もあり、ドルの上値も限られたものとなる可能性が高く、年初の高値 118 円台が上限かもしれません。

リスクシナリオとしては、ロシアゲート疑惑や対日貿易政策などトランプ政権発のサプライズの円高が挙げられます。今年安値の 108 円を割り込むような場合には、何か新しい材料が出ている可能性が高く、大幅な円高には警戒する必要があるでしょう。

■ 短期展望

先週は、110 円半ばで始まったものの、トランプ大統領のロシアゲート疑惑、ホワイトハウスでの人事を巡る混迷などからドル売りが強まり、一時 109 円 85 銭の安値をつけました。

しかし、週末の米雇用統計が予想を上回る強い内容だったことから、年内追加利上げ観測が再浮上し、ドルを買い戻す動きが広がり 111 円台を回復、110 円台後半で週を越えました。

今週も、ドルの上値の重い動きが予想されます。先週末の雇用統計後の戻りが限られたものとなっていること、ロシアゲート疑惑やトランプ政権の政策遂行能力への懸念などドルの不透明材料が多く残っています。

ただし、110 円割れが一過性の動きで終わったことにより急激な円高に対する警戒感も後退したと思われ、109 円 50 銭～111 円 50 銭で方向感のない動きが続きそうです。